

# 時 栃 報 幼

題字／栃木県知事 福田富一氏

## 第 149 号

令和4年9月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／齋藤 君世 ●発行人／船田 弘和  
■栃幼連ホームページ <https://www.youchien.or.jp>



### 第69回 栃木県幼稚園 教育研究大会

令和四年八月十八日から八月二十五日、栃木県総合文化センターと宇都宮市内の各会場において、教育研究大会が開催された。今年テーマは「新しい時代を伸びやかに生きる」で、県内一二七〇名の参加申込をいただき、開会式は会場参加とリモート参加、各科会はすべてリモートで研修を受けた。



#### 主催者挨拶

栃木県幼稚園連合会理事長 船田 弘和  
幼稚園教育、ならびに振興活動で大変お世話になっております。栃木県知事 福田富一様をはじめ、といた多くの方に臨席を賜りこの開会式を挙げて下さること、深く御礼申し上げます。



さて、昨年は対面の開会式を目指し準備してありましたが新型コロナウイルスの影響により、誰も会場に入ることなく我々執行部だけの開会式となりました。しかし、今年是对面を含めてハイブリットで

実施させていただきましたことは、このウィズコロナの時代に一歩前進したように思います。さて、昨年と今年の研究大会では大きく変わったことがございます。長年、栃幼連をけん引されました石嶋勇先生には十年間の長きに渡り、栃幼連をけん引していただきましたが、この期間内には、新制度があり、コロナの時代と、この中を努められた石嶋先生には加盟園ならびに教職員とともに謝意をおくりたいと思います。石嶋先生退任後は、新執行部で皆さんのご期待に添えるよう、一丸となつて教育活動、ならびに振興活動に努めていきたいと思っておりますので、お力添えのほどごぞようしくお願い申し上げます。

加盟園の先生方には栃木県内幼稚園の保育力の向上のため、今大会に集っていただきました。今大会のテーマは「新しい時代を伸びやかに生きる」です。その「思い」をしっかりと受け止めていただき、自らの深い学びと探求心によってスキルアップに繋げていただきたいと思います。学びを子どもたちに還元していただけたらありがたいと思います。コロナの時代にあっても、子どもたちは成長の芽を伸ばしております。しかしながら、環境の変化に心を



痛めている子どもたちも多数あります。どうか、すべての子どもたちが未来に希望を持って、大切な「今」を楽しく、こやかに生活できますよう先生方のお力添えをお願いいたします。

また、本研修会の実施、運営にあたっては幾重にも検討をして本日を迎えております。主催者を代表いたしまして御礼申し上げます。

#### 来賓祝辞

栃木県知事 福田 富一



第六十九回栃木県幼稚園教育研究大会が船田新理事長のもと、リアルで参加の方、オンラインで参加の方で賑やかに開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。

皆さま方には本県、幼児教育の発展にご尽力をいただいておりますこと、この場を借りて御礼を申し上げます。

また、前理事長の石嶋先生には、長い間、幼児教育の先頭に立ち続けていただきました。数々のご功績、心より敬意と感謝を申し上げます。この後、功労者表彰、永年勤続表彰を受賞されます先生方にも長年のご功績に対しても敬意と心よりお祝い申し上げます。

申し上げるまでもなく本格的な人口減少時代を迎え、社会全体で子育て支援を推進することが求められている中で、中核的な役割を果たしている幼稚園、認定こども園の教職員の皆さまが一同に会し、知識や技術の習得の場として、今大会が開催されますことは、大変意義深いものであります。

県といたしましても、少子化対策という最優先の課題に取り組むべく「とちぎこども子育て支援プラン二次計画」に基づき第三子以降の保育料免除事業をはじめ、幼稚園や認定こども園が行う地域への施設開放事業等の支援など各種事業を実施しているほか、コロナ禍における物価高騰等による給食費負担軽減を図る

#### 表彰

- 「幼稚園教育研究功労」  
小林 研介（認定こども園呑竜幼稚園） 一名  
五十年表彰 五名  
三十年表彰 十四名  
二十年表彰 三十三名  
十年表彰 八十五名

#### 講演会

- 講師 神戸大学大学院人間発達環境学研究所教授 北野 幸子氏  
テーマ 地域発・保育の質の維持、向上をめざして実践現場から考えるこれからの保育

#### 公演会

- 講師 サイエンスインストラクター/アナウンサー / 防災士 阿部 清人氏  
テーマ おもしろサイエンスショー



# 第69回栃木県幼稚園教育研究大会 分科会



今年度の分科会は5日間に分け、オンラインのみ、午後の時間で実施しました。例年よりは研修時間は短くなりましたが、コーディネーターや助言者、会場責任者、青年部委員の皆さんのおかげでオンラインの特性を活かしながら満足いただける内容になったと思います。ご参加いただきました皆さまの保育力向上になりましたら幸いです。ご協力いただきました皆様に感謝いたします、ありがとうございました。

教育研究委員長 小倉 庸寛

## 互いに育ち合うインクルーシブな保育の在り方とクラス集団の育ち (68名)

助言者 久保山 茂樹(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所・上席統括研究員・インクルーシブ教育システム推進センター・センター長)

コーディネーター 石戸 奈緒美(みふみ認定こども園・副園長)



**参加者の声**  
できる・できないに関わらず、今できることを見つけてあげることが、要支援児に必要なことだと思う。他児のことも考えながら過ごしやすい環境で保育をしていきたい。

### 1分科会

## 自己肯定感を育む保育 (105名)

助言者 高橋 美保(白鷗大学・名誉教授)

コーディネーター 栗田 英子(認定こども園黒羽幼稚園・園長)



**参加者の声**  
自己肯定感は、育まれるもの。一人ひとりのありのままの姿を認め受け止める大切さや、食事や遊びで培われるものであることを実感した。

### 2分科会

## 豊かな人間性を育む、子どもの主体的な活動と遊び ~「主体的・対話的で深い学び」とは~ (83名)

助言者 田澤 里喜(玉川大学教育学部教育学科・教授 東一の江幼稚園・園長)

コーディネーター 岡本 純世(認定こども園すみれ幼稚園・園長)



**参加者の声**  
「主体性とは?」をしっかりと考えることができた。保育環境を見直し、指示・命令よりも提案ができるような言葉を選んでいきたい。

### 3分科会

## 愛着形成とホスピタリズム(発達理論) (115名)

助言者 伊崎 純子(白鷗大学・教授)

コーディネーター 花岡 宏樹(認定こども園梅ヶ原幼稚園・副園長)



**参加者の声**  
“乳児はしっかり肌を離すな。幼児は肌を離せ、手を離すな。少年は手を放せ、心を離すな。”という言葉が心に響いた。今後に活かせるよう頭に入れておきたい。

### 4分科会

分科会	話題提起者	日程
1	小林 あゆ美 (みふみ認定こども園・主幹保育教諭) 高津戸 杏花 (認定こども園釜井台幼稚園・副主任)	8/24
2	山口 加奈子 (認定こども園ふたば幼稚園・保育教諭) 小平 弘美 (認定こども園黒羽幼稚園・保育教諭)	8/23
3	神長 和泉 (高根沢第二幼稚園・教諭) 松本 奈央子 (認定こども園烏山聖マリア幼稚園・保育教諭)	8/25
4	桜井 友紀 (認定こども園野木幼稚園・保育教諭) 河野 敦子 (認定こども園むつみこども園・副園長)	8/24
5	宇賀神 由美 (宇都宮大学共同教育学部附属幼稚園・教諭) 石島 あさみ (認定こども園愛泉幼稚園・学年主任)	8/24
6	阿部 恵子 (幼保連携型認定こども園矢場川幼稚園・保育教諭) 小澤 美咲 (幼保連携型認定こども園旭幼稚園・主任) 井上 智裕 (幼保連携型認定こども園旭幼稚園・教務主事)	8/25
7	森田 遥香 (認定こども園アルス南幼稚園・保育教諭) 塩澤 愛華 (認定こども園しずわでら幼稚園・保育教諭)	8/23
8	古川 清美 (認定おおぞらこども園・保育教諭) 田野 育恵 (鹿沼幼稚園・主任教諭)	8/19
9	黒川 裕幾 (認定こども園にしだ幼稚園・保育教諭) 市村 美晴 (萌丘東幼稚園・教諭)	8/22
10		8/19
11		8/22
12	永田 文子 (さくら認定こども園・園長) 阿部 陽子 (岡本幼稚園・園長)	8/22
13	[パネルー] 五十嵐 市郎 (宇都宮市立富屋小学校・校長) 岸 万衣子 (日光市教育委員会・副主幹兼指導主事)	8/19
14		8/23

子どもと保護者を支える～家庭問題と向き合うには～(75名)

助言者 谷黒 潤(宇都宮市役所 子ども部子ども家庭支援室・室長)  
高橋 弘美(さくらネット小山・代表理事)  
コーディネーター 今井 政範(認定こども園さくらが丘・理事長)



参加者の声  
少し見方を変えるとネグレクトであつたり虐待ともとれるケースも少なくないと感じました。子どもの様子等細かい変化に気づけるように保育者同士のコミュニケーションが大事であると改めて感じました。

10分科会

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)を踏まえた保育実践(67名)

助言者 高根沢 伸友(栃木県幼児教育センター・副主幹)  
コーディネーター 大島 絵理子(認定こども園呑竜幼稚園・教頭)



参加者の声  
身近な出来事に保育者がアンテナを張って子どもの感性や経験を伸ばしていくことで、自然に子どもたちは、10の姿を身に付けていくものなのだと感じました。

5分科会

Withコロナ・Afterコロナの教育を語り合う(18名)

助言者 田島 大輔(和洋女子大学・助教)  
コーディネーター 山崎 英明(認定こども園釜井台幼稚園・園長)



参加者の声  
各園の取り組みを参考にしながら、コロナ禍でも子どもたちが様々な体験ができるよう工夫していきたい。

11分科会

子どもの育ちと保育記録～記録の取り方と活用方法～(67名)

助言者 田代 幸代(共立女子大学・教授)  
コーディネーター 鈴木 典子(山辺幼稚園・園長)



参加者の声  
事実の記録に偏りがちだったことに気づいた。その子の姿から感じ取れる学びや成長、必要な援助を記録して、明日の保育に役立てたい。

6分科会

保護者と共にこどもの育ちを支える(94名)

助言者 杉本 太平(宇都宮共和大学・教授)  
コーディネーター 稲川 知美(宇都宮大学共同教育学部附属幼稚園・副園長)



参加者の声  
保護者も子どもの世界を感じながら楽しめているか、ともに子どもの育ちを支えている実感があるのかという視点も大切だと学んだ。

12分科会

「困り感を持つ子」への理解と支援の手立て(141名)

助言者 田淵 光与(宇都宮共和大学・教授)  
コーディネーター 大久保智子(認定こども園やすづか幼稚園・副園長)



参加者の声  
困り感を持つ子への支援として『無理せず、焦らず、ゆっくり』という言葉がとても心に残った。子どもの心に寄り添った保育をしていきたい。

7分科会

スムーズな小学校への接続を考える(76名)

助言者 天川 有紀(栃木県幼児教育センター・副主幹)  
コーディネーター 大嶋 裕(認定こども園今市中央幼稚園・理事長)



参加者の声  
抄本の書き方や、進学に向けての保育など参考にしていきたい。小学校を見据えながらもそこがゴールでないことを理解して子ども一人ひとりに向き合っていきたいと思う。

13分科会

音楽に関わる活動を豊かにするために～音楽活動が子どもの豊かな感性を育む～(106名)

助言者 長澤 順(作新学院大学女子短期大学部・准教授)  
コーディネーター 齋藤久美子(認定こども園鹿沼ひかり幼稚園・副園長)



参加者の声  
楽器や音楽表現に取り組む際、保育者としてどのような関わり方を考えているかグループディスカッションの際にお聞きすることができ、たくさんの経験談やアドバイスを頂けたので、今後の自分の保育へと活かしていきたい。

8分科会

教育実習・保育実習の受け入れについて(35名)

助言者 榎木 彩(大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部・助教)  
栗原 多恵(佐野日本大学短期大学・講師)  
稲川 知美(宇都宮大学共同教育学部附属幼稚園・副園長)  
コーディネーター 小林 研介(認定こども園呑竜幼稚園・園長)



参加者の声  
養成校での取り組みや実習を受け入れる側の対応や期待などが知れて参考になった。教育実習は、お互いが学び合う場と捉えていきたい。

14分科会

幼児が主体的に活動できる環境構成(104名)

助言者 市川 舞(宇都宮共和大学・准教授)  
コーディネーター 佐々木 桐子(萌丘幼稚園認定こども園・園長)



参加者の声  
子どもも主体的であると同時に保育者も主体的に、子どもたちが楽しく充実した園生活を過ごせるよう環境構成を考えていきたい。

9分科会



# 研修会だより

## 設置者・園長経営研修会

● 期日 令和四年六月二十一日(木)  
 ● 会場 コンセーレ (アイリスホール)  
 ● 参加 九十二名  
 (うちリモート参加 六十名)

### 研修一

演題 「私立学校法改正の動向について」  
 講師 栃木県保健福祉部 こども政策課 係長 谷川 尚久氏



谷川尚久氏

令和元年度私立学校法改正に伴い、主として以下の条項が改正となったと説明がなされた。

- ・特別の利益供与の禁止
- ・理事会の議事参与制限
- ・競業及び利益相反取引の制限
- ・理事の監事への報告義務
- ・評議員会の議事参与制限
- ・評議員からの意見聴取
- ・役員からの意見聴取
- ・役員からの意見聴取
- ・寄附行為の備置き及び閲覧
- ・役員等名簿の備付け及び閲覧

また、学校法人のガバナンスの強化に向けた私立学校法の改正の方向性について、私立学校関係団体の代表者及び有識者と協議し、その合意形成を図ることを目的として、大学設置・学校法人審議会学校法人分科会のもとに学校法人制度改革特別委員会が設置された。文部科学省は、委員会の報告書に沿った私学法改正案を検討しており、今後国会等の状況を踏まえ、提出する方針であると説明がなされた。

今後、法令改正がなされる方針であることから、法令順守した上で学校経営を行うことができるよう、動向をしっかりと把握していく必要があると感じた。

### 研修二

内容 幼児教育センターより  
 「日頃の感謝と情報提供」  
 講師 栃木県幼児教育センター

センター長 高木 恵美氏  
 副主幹 黒川 貴広氏



高木恵美氏 黒川貴広氏

はじめに、栃木県幼児教育センター センター長 高木 恵美氏より、日頃の幼児教育センターの活動の理解・協力に感謝の意をいただき、日頃の保育に対するねぎらいの言葉をいただいた。副主幹 黒川 貴広氏から、幼児教育センターで実施している各研修についてご説明いただいた。また、学校評価について、自己評価・学校関係者評価は、教育・保育の質を向上することに大変重要なものであるため、積極的に実施して欲しいと述べられた。

保育者は日々学び続け、自身の保育を振り返り、より良いものにしていくことが求められていることから、積極的に研修に参加していくことが大切であると感じた。

### 第一回 O・1・2歳児研修

● 期日 令和四年六月二十日(月)  
 ● 会場 コンセーレ (大ホール)  
 ● 参加 百三十一名  
 (うちリモート参加 百十四名)

講師 ジャーナリスト・名寄市立大学 特命教授 猪熊 弘子先生

メモ O・1・2歳児保育を自身の体験を交えながら、乳児の保育で大切にすべき関わりや働きかけ、一人ひとりに合わせた保育が重要な理由や保育内



猪熊弘子先生



容等を学べた研修であった。まず、子ども「いのち」を守ることとして、教育保育要領の「養護」についての説明がなされた。養護とは、子どものいのちを守ることであり、同時に保育者が子どもにしてあげること。乳児だけに留まらず幼児の保育計画にもそれぞれに必要な部分を取り入れて欲しい。乳児と幼児の保育の考え方は同じではなく、乳児からの保育をすることで幼児保育の理解度がより深まる。子ども一人ひとりの発達度合いをきちんと把握し、個人に合った保育を徹底することが安全な保育につながる。として、子ども一人ひとりの違いを認め、丁寧に寄り添う保育が安全のためには最も重要かつ、いかに実践するかという内容であった。

つぎに、大切にしたい「アタッチメント」として、子どもとの信頼関係を築く重要性についての講話がなされた。ジョイントネスとはお互いが感応し合う情緒的な繋がりのことで、お互いに引き付け合い、つながるって気持ちいいと感じると、脳と心が育っていく概念である。子どもは運動機能や言葉の発達とともに情緒面でも大きな発達をしていき、身近な保育士との絆が深まる中で、安心感をもって甘えたり、人見知りが始まるが、保育士との信頼関係の築きによって、周囲の者に興味を持つたり大人から離れた活動に挑戦するようになるのと説明がなされた。

最後に、安全な保育をするための具体的な方法として、先生が自身の体験談を交えての講話となった。食う・寝る・遊ぶ(怪我等への対策)として、O・1・2歳児にかけて行う午睡は、毎日行うことからも常に睡眠中の事故に気を付けなければいけない。必ず仰向けで寝かしつけ、絶対につぶせない。子どもの体調の急変等に備えるため、表情が見えるように明るい部屋で寝かせる。また、食べ

### 第二回 保育セオリー講座

● 期日 令和四年七月八日(金)  
 ● 会場 コンセーレ (アイリスホール)  
 ● 参加 百十七名  
 (うちリモート参加 九十二名)

講師 明治学院大学 心理学部 教授 松崎 洋子氏

メモ 子ども「いのち」の活動を駆けて回っていることをイメージするが、実際には少子化により遊ぶ子どもが少ない、子どもの声がうるさいと言われ公園で遊ぶことができない等と、子どもは日常生活の中で体を動かす機会が少なくなっているという。



松崎洋子氏

しかし、幼児期の運動遊びの経験は、その後の運動やスポーツへの取り組みに影響を及ぼす大切なものである。また、幼児期は動作の習得に適した時期であり、それは専門的なトレーニングではなく、体を動かす遊びの経験を通して総合的に運動能力を高めることが大切になるといえる。そして、体を動かすこと(運動や習慣)は、大人になってからの心理的健康にも



影響することがわかっています。そのためにも体を動かす楽しさを経験する遊びが必要になってくる。子どもの遊びの楽しさを広げる・深める遊びを提供することが何よりも大切なことである。親や保育者などの環境としての大人は、子ども遊びの世界を広げるきっかけの一つということを通じてこの講座を通して学ぶことができた。今後の保育に活かしていきたいと思う。

資質向上研修①

期日 令和四年七月十五日(金)  
会場 コンセーレ (アイリスホール)  
参加 六十三名  
うちリモート参加 五十三名

テーマ 「保育における自然の意味って何だろうか?」SDGs時代だから考えたいこと」

講師 岐阜成徳学園大学教育学部 教授 松本 信吾氏

XEROX 幼児期にふさわしい心が動かされる環境(夢中)になって遊び込める環境)には、「安心感・自由感・多様性・応答性・くらし」の要素が必要である。子どもが遊び込むとは、うまくいかないことも含め没頭するなかで手心えを感じることであり、深く対話(ヒア&ヘルプ)できる対象が必要である。



人工物には生命がなく、変化のしづらさ、かかわりの単一さなど限界がある。一方で、自然界には原理・原則のなかに、その経験を保障できる要素と対象が備わっている。遊び込みにより、自然の多様性・循環性への気づきや、活かすことを経験しながら、「人間を含め、多様な物が存在するからこそ豊かな世界になる」ということを、心地よさ・面白さ・親しみといった感覚を伴って味わうこと



が価値観の醸成や、SDGs時代含め人として生きることへの原体験につながる。保育者は、子ども一人ひとりの多様な感じ方・かわり方・表現を保障することが求められる。また、保育・SDGsの双方において、対象の十分な理解とともに、大事にしたいことは何かや、課題・問題について自らに問い続け、考え続け、実践し続けることが大切である。

第三回 保育セオリー講座

期日 令和四年九月六日(火)  
会場 コンセーレ (大ホール)  
参加 百七名  
うちリモート参加 八十八名

テーマ 「対話することから始まる保育とは?」

講師 お茶の水女子大学アカデミック・ブロードシジョン寄附講座教授 文京区立お茶の水女子大学ことも園 運営アドバイザー 宮里 暁美先生



XEROX 司会者から講師の著書「耳をすまして目をこらす」といってどりの子どものきもち」の紹介で研修が始まった。「対話する」をテーマにして、毎日接している子どもたちの姿の中からお話したいことを集めて大切に話します」という講師の言葉通り、子どもの画像を交えて示された事例は、喜びを共有する対話、生活の中で食べる対話、跡をつける対話、しぐさで対話する。いずれも講師の温かいまなざしと慈愛に満ちた心でとらえられたほほえましくも真剣な子どもたちの対話がうかがわれていた。対話は、保育の原点であり、言葉だけでなく、ただ隣に寄り添っていること、言葉になる前のことばやこどもの

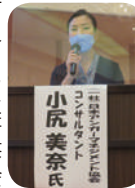
眼差し、心もちによってなされている。保育者は、子どもが始めたことを大事に、子どもの「感じる」に一緒に向き合うことの大切さを再確認した研修となった。

令和四年度 青年部研修会

期日 令和四年六月三十日(木)  
会場 ホテルニューイタヤ(桜の間)  
参加 十九名  
うちリモート参加 七名

テーマ 「アンガーマネジメント研修」怒りをコントロールし、風通しの良い職場環境をつくる」

講師 (一社)日本アンガーマネジメント協会



XEROX 梅雨も明け夏本番となったが、未だ六月ながら栃木県でも四十度を超える暑さの中、三十日に青年部委員を対象とした研修会を行った。今回は、概して園経営に参画している青年部員向けに「アンガーマネジメント」をテーマとした研修であった。講師である小尻氏は幼稚園教諭としての経験もあり、園での様々な要因も心得ており、スムーズに話が進んだ。まず大切なことは、「怒り」とは抑えたりするものではなく、怒らなければいけないことに対して、適切に怒ることだという。そこで「怒り」をマネジメントする(小尻氏によれば、怒って後悔しない)ことが重要になってくる。怒りとは人間の感情の一つだ。つまり、人間にとつてなくすことのできないものであり、そのためのマネジメントが重要になってくる。指導する上では、怒らなければならぬ場面が出てくる。ではその怒りは誰に?何に?と考えた時、実は自分の側に答えがあるのだという。怒りと相手の間の「こころあるべき」という、相手の価値観など、考え方のズレが生んでいる

というのだ。しかし怒らなければならない。ではどうしよう。それがアンガーマネジメントであり、小尻氏は三つの方法を示してくれた。一つ目に、怒りを覚えてから六秒待つこと。二つ目に、その怒りに点数をつけること(十点満点)、そして三つ目がその怒りが許せるか、まあ許せるか、許せないかの三パターンに分ける。一つ目、二つ目で怒りを冷静に見つめ、最後に実際に怒るかどうかを決めるのだ。怒り方も大切であり、口調や態度、タイミングなど様々なことを考えてからいざ、普段からやっていることもかもしれないが、怒りとは突き詰めていくことも複雑なことかと、改めて考えさせられる研修となった。

令和四年度 新規採用教諭研修

期日 令和四年八月八日(月)  
会場 ZOOMによるリモートのみ  
参加 選択 午前/午後  
ア 二十八名/四十名  
イ 九十六名/五十名  
ウ 二十二名/十九名  
エ 六十三名/九十九名

テーマ 「0,1,2歳児の保育」  
「笑顔があふれるリズム遊び」  
「ウ」しぜんあそび」  
「エ」コミュニケーションの基本」

講師 信頼関係を高める」  
青年部員  
工 アーウ 鶴飼 雅子氏

XEROX 宿泊研修の代替研修として、四つの選択肢の中から二つの研修を選び、リモートで行った。アーウを青年部員、工を鶴飼雅子氏が講師として、それぞれ実施した。





# とちぎの幼稚園認定こども園等 合同就職説明会

**期 日** 令和四年七月十日(日)  
**会 場** ホテル東日本  
**参加状況** 参加園数 百四十一園  
 参加者数 二百九十名  
**参加者内訳** 県内学生 二百四十四名  
 県外学生 四十三名  
 一 般 二名

栃木県幼稚園連合会が主催する就職説明会は、今年度で二十五回目を迎えた。ホテル東日本での開催は初の試みであった。

感染症対策として、参加人数への配慮が不可欠なことから、地域別に前半と後半に分散して開催する運びとなった。

・前半(十三時から十四時半まで)  
 宇都宮市、鹿沼市、真岡市、矢板市、さくら市、那須烏山市、上三川町、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町、塩谷町、高根沢町、那珂川町

・後半(十五時半から十七時まで)  
 足利市、栃木市、佐野市、日光市、小山市、大田原市、那須塩原市、下野市、壬生町、野木町、那須町  
 会場内は、さらに四つの部屋に分かれ、それぞれ十五から二十の園が参加者を迎え入れた。また、各園のテーブルにはアクリル板が設置さ



れ、すべての来場者が検温、消毒、マスク着用の上で入室する仕組みであった。開始前には、参加園に対して総務委員長の石川先生より



認事項が示され、本説明会は就職の採用を決める場所ではないことや、参加者が少しでも多くの園と話ができるように、ひとつの園における対話時間に配慮することなどが伝えられた。

会場内の参加者は、次々に気になる園のブースへと足を運び、園が望む教師像や教育方針、採用試験の内容に関する質問をしながら、熱心にメモをとる姿がみられた。説明会に参加したことで、新たに興味・関心を抱く園と出会い、見学や自主実習の希望を伝える学生もいた。



養成校別の参加人数で最も多かったのは、作新学院大学女子短期大学部(百名)であり、二番目は佐野短期大学(四十名)、続いて、白鷲



大学と宇都宮共和大学(三十一名)であった。三年ぶりに一般の参加者も来場した。今後も学生に限らず、このように足を運ぶ参加者が増えていくことに期待したい。

合同就職説明会は、これから先生になつて活躍する方たちと園の出会いの場所でもある。説明を受けた参加者にとって、栃木県の幼稚園・認定こども園で働きたいという気持ちが高まっていることに期待したい。

# 第35回 全日私幼連関東地区 教員研修神奈川大会

**期日** 令和四年八月九日(火)～十日(水)  
**オンライン開催**  
 参加者 千六百五十五名  
 (栃木県五十七名)

## 大会テーマ

「新しい時代を伸びやかに生きる」  
 ～未来に向かって

子どもが主役の幼児教育を、長引く新型コロナウイルス感染症拡大の収束が見通せないなか、当初は対面式にて開催を予定していた本大会は、令和四年五月の関東地区会理事会にてオンライン開催での変更が決定された。

大会初日は開会式終了後、脳科学・AI研究者として知られる黒川伊保子氏による基調講演、劇団かかし座による保育現場に活かせる影絵の公演が行われた。



大会二日目のフォーラムでは多様なニーズに応える十五のフォーラムが実施され、本県からは「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(十の姿)を踏まえた保育実践」をテーマにオンライン(Zoom)により配信された。

酷暑のなか、お骨折りいただいたゲスト(高根沢伸友氏)、コーディネーター(大島絵理子先生) 問題提起(宇賀神由美先生・石島あさみ先生)の方々へ敬意を表したい。



# スクールバス安全運転研修会

**期日** 令和四年八月十八日(木)  
**講師** 宇都宮中央警察署 交通総務課 企画係長 中野 大輔氏  
 栃交自動車学校 教務部長 石崎 隆英氏

今回の研修は会場とリモートで行われた。宇都宮中央警察署交通総務課企画係長の中野大輔氏より、昨年に引き続き栃木県における交通事故の事例を基に、日々の交通安全についての心構えや、注意点が説明された。園バスによる重大事故は、園の評判にも大きな影響を及ぼす。全国的な報道や、SNSによつてすぐに情報が広まってしまうため、園の看板とも言える幼稚園バスの事故における影響力は想像以上である。交通事故による被害者遺族の思いについても動画を視聴することにより再確認できた。乗車している子どもたちの命に関わる大きな事故を防ぐためにも、自己管理や安全意識の再確認をしつかり行うことが必要である。



また、幼稚園バスによる重大事故を防ぐための留意点についての講話を栃交自動車学校教務部長の石崎隆英氏よりいただいた。プロドライバーとして、多くの若い園児の命を預かってスクールバスを運転する「責任の重さ」を改めて認識すること、ひとたび死亡事故のような重大事故を引き起こせば、園の存続に大きな影響を及ぼすことが忘れずに安心安全を心がけていくことが大切である。そのため、安全な送迎に向けての心の準備を行い、どんな事態に対してもいつでも対応できる準備と、目的を必ず達成するということ意気込みが求められる。運転手に求められる責任は重く、プロドライバーとしての誇りと自覚を持ち、安全への注意力と配慮をさらに高めていきたい。



また、幼稚園バスによる重大事故を防ぐための留意点についての講話を栃交自動車学校教務部長の石崎隆英氏よりいただいた。プロドライバーとして、多くの若い園児の命を預かってスクールバスを運転する「責任の重さ」を改めて認識すること、ひとたび死亡事故のような重大事故を引き起こせば、園の存続に大きな影響を及ぼすことが忘れずに安心安全を心がけていくことが大切である。そのため、安全な送迎に向けての心の準備を行い、どんな事態に対してもいつでも対応できる準備と、目的を必ず達成するということ意気込みが求められる。運転手に求められる責任は重く、プロドライバーとしての誇りと自覚を持ち、安全への注意力と配慮をさらに高めていきたい。



### 新規採用幼稚園教諭等研修

#### 第二日

五月二十七日及び六月二十九日に、第二日を実施しました。当初の予定では宇都宮大学共同教育学部附属幼稚園を会場に、実際の保育を参観して考察を深める研修を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑み、オンラインでの開催としました。

はじめに、事前に撮影させていただいた宇都宮大学附属幼稚園の五歳児の保育映像を視聴し、子どもが人やものに関わる場面、その時の環境の構成や保育者の援助について「私の選んだ名場面」にまとめました。ブレイクアウトルームを活用したグループ内での発表や、保育者の宇賀神教諭からのコメントなどを通じて、保育の意図や実際の子どもの姿について考察を上げました。

また、「環境の構成と援助」私の発見」として、保育の中で大切にしたいポイントをグループで協議し、考察を深めました。

新採者からは「改めて子どもの興味・関心を生かすためにはどうしたらよいかを考えることができた」「保育者が子どもにとって重要な環境であることを再認識することがで

きた」「口頃の子どもの様子を振り返り、その遊びが発展できるように環境を構成していきたい」「子どもの興味に沿った活動を広げていくことが子どもの主体性や友達との関わりに大きく関係することが分かった」などの感想がありました。

#### 第三日

七月二十日及び二十七日に、感染症対策を十分に施しながら、第三日を総合教育センターで実施しました。

午前中は「一人一人を大切にすること教育」について、栃木県教育委員会総務課人権教育室の首藤指導主事が講話を行いました。その後、「幼児理解・園児の理解から始まる保育」について講話を行い、保育映像の視聴を通じて、新採者それぞれが幼児・園児を理解する演習を行いました。

午後は、グループ毎に指導助言者の下で演習を行い、幼児理解・園児の理解について意見交換を行い、多面的な見方を共有したり、幼児理解・園児の理解をもとに、今後の保育について考えたりしました。指導助言者の豊富な経験をもとに、

分かりやすく演習を進めていただき、新採者それぞれが日頃の実践を振り返ることができました。



新採者からは「子どもの内面や行動の背景を理解し、それに基づいた保育をしていきたい」「その子自身に必要な経験は何かを考えていくことが必要だと感じた」「自分では気が付かなかった様々な視点に触れることができた」「一つの場面だけでは判断するのは難しく、子どもを長い目で見てあげることが大切だと気付いた」などの感想がありました。



研修の学びを生かし、今後一人一人の子どもの深い理解に基づいた保育を展開していけるよう、応援しています。

### 教育課程研究集会

六月十五日に第一日を総合教育センターで実施しました。今年度の栃木県の協議主題は、『幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会』における議論等を踏まえ、幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について「指導計画の作成、保育の展開、指導の過程の評価・改善」についての二つです。

午前中は研修の概要説明の後、神長美津子顧問より、協議主題の解説を行いました。

午後は、それぞれの協議主題について、今後それぞれが研究の方向性をもつための協議を行いました。

受講者からは「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について改めて学び理解を深めたい」「保育計画からの実践、振り返り、改善が保育の質の向上につながることを改めて実感した」などの感想がありました。第二日には、それぞれの研究のまとめを持ち寄り、共有しながら、主題に基づいて考察を深めていくことを予定しています。



### 九月～十二月の研修

#### 九月

十四日(水) 教育課程研究集会第二日  
二十日(火) トップセミナーⅠ ※オンライン開催

二十一日(水) 幼稚園等教職五年目研修  
二十九日(水) スキルアップセミナーⅠ  
第二日

#### 十月

十四日(金) 中堅幼稚園教諭等資質向上研修第五日  
十八日(火) 幼小接続推進者研修第四日  
二十日(水) 合同研修(幼小) ※オンライン開催

#### 十一月

八日(火)・十四日(月) 合同研修(幼小) ※オンライン開催  
十七日(水) トップセミナーⅡ ※オンライン開催

#### 十二月

六日(火) 幼児期の特別支援教育研修第二日  
十三日(火) スキルアップセミナーⅡ  
二十日(火)・二十一日(水) 新規採用幼稚園教諭等研修第九日



# こども政策課だより

## 新型コロナウイルス感染症対策について

オミクロン株BA・5への置き換わりに伴い、全国的に新規感染者数が過去最多を大きく更新した第7波が七月から始まりましたが、オミクロン株の特性から、「社会経済活動の維持」と「医療ひっ迫回避」を両立するため、「BA・5対策強化宣言」を発出した一方で、今年の夏は三年振りに行動制限の無い夏休みとなりました。子どもたちには、楽しい思い出となるような経験ができたことを願うばかりです。

このような変化の中においても子どもたちや職員の名を守るため、日々御尽力いただいている皆様に深く敬意を表します。

県におきましても、感染防止対策の徹底や医療・療養体制の確保、事業者等への支援等に取り組んで参りますので、皆様におかれましても、引き続き、感染拡大防止に御協力を願います。

なお、オミクロン株の特性等を踏まえ、保健所による積極的疫学調査の重点化により、濃厚接触者や出席停止及び臨時休業等について、ガイドラインが改定されていますので、併せて御留意くださるようお願いいたします。

## 各種届出書類について

### 幼稚園運営費補助金交付申請書

○提出期限 十月下旬(予定)  
○令和四年度幼稚園運営費補助金(一般補助分)の内定については、十月下旬を予定しています。交付申請書の提出に当たっては、別途通知する内定通知に基づき提出願います。

### 幼稚園運営費補助金及び幼稚園教材費等補助金(特別補助分) 関係書類

#### 特別支援教育

○提出書類  
ア 対象園児就園状況調査書  
イ 対象園児担当・指導教職員に関する調査書

ウ 対象園児である旨の判定調査書  
○提出期限 十一月中旬(予定)  
※ウについては、身障者手帳、特別児童扶養手当証書、療育手帳、専門医の診断書又は、児童相談所等の判定書のいずれかが必要となります。

また、学級担任以外の教職員から特別な教育支援を受けている幼児が補助対象園児となりますので、御留意願います。

### (二) 子育てランド事業

#### 提出書類

ア 子育てランド事業実施計画書  
イ 各事業における保護者等への案内通知(写)

### (三) わんぱく保育推進事業

#### 提出書類

ア わんぱく保育推進事業実施計画書  
イ 預かり保育実施記録  
ウ 保護者等への案内通知(写)  
○提出期限 十一月中旬(予定)

※各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上、期限までに提出願います。

## 令和四年 十月～十二月までの事業予定

10月14日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修 資質向上研修(公開保育)
10月18日	※幼小接続推進者研修
10月20日	※合同研修(幼小)
10月24日	幼稚園教育振興の集い(足利市) 全日私幼
10月25日	設置者・園長研修全国大会(長崎県) 全日私幼
11月8日	※合同研修(幼小)
11月9日	全日私幼
11月10日	関東地区代表者協議会(新潟県) 設置者・園長研修会
11月11日	保育アツキカル講座
11月13日	とちぎ教育振興大会
11月14日	※合同研修(幼小)
11月17日	※トップセミナーII
11月21日	0・1・2歳児研修
12月6日	※幼児期の特別支援教育研修
12月7日	関東甲信越放送・
12月8日	視聴覚教育研究大会(栃木県) ※スキルアップセミナーII
12月13日	資質向上研修(幼小連携)
12月15日	⑨新採研(集合研修)
12月20日	⑨新採研(集合研修)
12月21日	※は幼児教育センター事業

## 訃報

- 日光市 認定こども園長畑幼稚園 副園長 円山 和代 先生 令和四年五月二十一日逝去
  - 鹿沼市 晃望台幼稚園 前理事長 青柳 愈 先生 令和四年六月八日逝去
  - 宇都宮市 認定こども園伊東文化幼稚園 前理事長 伊東 幸男 先生 令和四年六月十二日逝去
  - 那須塩原市 認定あけぼのこども園 前理事長 齋藤 達之 先生 令和四年六月十四日逝去
  - 栃木市 認定こども園吹上幼稚園 前園長 酒井 トミ 先生 令和四年八月十二日逝去
- 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 編集後記

この記事を書いているのは令和四年八月二十二日午前六時、つまり、夏の甲子園決勝戦当日の朝。この記事が皆さんのお手元に届くころには、当然だが優勝校が決まっているし、あれほど白熱し、一部では波乱の甲子園とも呼ばれた今大会の話題をしている方も、ほほいっしやらないのではないかと思います。

さて、今大会を振り返ってみる(この記事を書いている今は開催中だが)と、三年ぶりに観客の入場制限が解除。ブラスバンドも今大会では、最大五十名までの制限があったものの、久しぶりに生の大演奏が甲子園球児たちを後押しした大会と言って良いだろう。われら國學院栃木の「新世界より」はとも良かった。これはもう、魔曲だ。智辯和歌山の魔曲と言われた「ジョックロック」を選曲した方は、流石としか言いようがない。最高だ。

その他、すべての高校のブラスバンドの持つ力には魅了した。あれほどの曲をあれほどたくさん観客の中で演奏されてしまったら、私だって特大のホームランが打てそうな気がしてしまう。「波乱の大会だった」のではなく、「応援が球児たちの力を更に引き出した大会」ではないだろうか？

さて、二学期。二学期に運動会を実施する園も多くあるであろう。「前年より一歩前」へと強く願う一方で、現状では慎重に検討する園が多くあって当然といえよう。「コナはもうたくさんだ。」

一刻も早くコナが終息し、大声援の響く大運動会が各園に戻ることを切に願う。(認定こども園静林幼稚園 伊沢 信恭)